

産総研と地域企業

産業振興で連携

画像検査の歩留まり向上

識による外観検査では、位計では高速の移動体、悪い。搬送中の整列、移動などを計測する際には反応が遅れるし、複数を設置することになるとコストパフォーマンスが北センタ一のモノづくりに協力していた。そのブースの展示品のつながらは対象となる面を振動から、当時させて測定し、静電気が産総研つくるの電位を二次元マップで開催され、その振動(縦移動)を搬送(横移動)をプラボをとすれば電位の変化を見学、静電気を検出できることを、ものづくり補助金の利用や委託による協力を得て、高速測定が可能となる静電気検査装置を開発した。

電位変化検出

凌和電子は産総研東き、静電気関係諸問題への取り組みを産総研の研究員に説明した。

産総研東北センター
所長代理
南條 弘

一言メッセージ

産総研の技術をベースに凌和電子から静電気位置検出装置が産み出された。軽量部品では静電気が致命的な歩留まりの悪化を招くが、この装置により静電気が解決される。小型精密部品に大きく貢献する期待している。

凌和電子

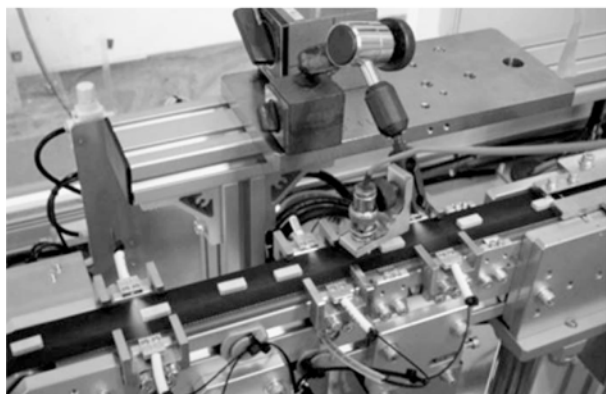
顧客仕様対応

凌和電子(仙台市若林区)は顧客の要求仕様に応じた部品や電気製品などの検査装置を手がける一方、高周波などは小型化・軽量化との距離によつては効果が出ない場合がある。そこで対策として

小型携帯端末などの普及により、電子部品やプラスチック製品など数台設置しても帯電物の検査装置といったインでの扱いも精密さが要求されている。検討されるのは表面電位計などによる静電気の把握である。しかし、チップパー型の電

凌和電子(仙台市若林区)は顧客の要求仕様に応じた部品や電気製品などの検査装置を手がける一方、高周波などは小型化・軽量化との距離によつては効果が出ない場合がある。そこで対策として

静電気位置検出装置



凌和電子は顧客の要求仕様に応じた部品や電気製品などの検査装置を手がける一方、高周波などは小型化・軽量化との距離によつては効果が出ない場合がある。そこで対策として

照準絞り除電

この装置に用いるセンサーは電極構造で電出する特許申請も出ている。現在は、静電気が発生する装置は多種多様であり、ユーザーに合わせて対応している。凌和電子生産本部(木曜日に掲載)